神奈川淡水試報，**32**（1996）

神奈川県下で発生したアユの冷水病について（要旨）

相澤　康

アユの“冷水病”は、*Cytophaga psychrophila*を病原菌とする細菌性疾病であり、近年、全国的に被害を及ぼしている。本県では、1994年２月17日に初めて発生を確認し、その後、琵琶湖産種苗を中心に発生している。本魚病は、県内のアユ養殖においても少なからぬ被害を出しており、症例と病原菌の分離方法等について試験したので、その要旨を報告する。詳細は神奈川県水産総合研究所研究報告１号に掲載される予定である。

症　例

多くみられた症状は、体表退色、鰓貧血、下顎出血であり、その他特徴的な症状として下顎欠損、穴あき、尾柄部欠損、肝臓貧血であった。

分離方法

鰓蓋下部出血を呈する症状では体表及び内臓ともに高い分離率であった。次いで、鰓貧血が高い分離率であったが他部位で貧血を呈する場合、他細菌が高率に分離された。

分離培地・分離部位の検討を行ったところ、BHI培地では分離できなかった。分離率を大きい順に示すと、血清加サイトファーガー培地（23.4%）、サイトファーガー培地（17.7%）、血清加TY培地（15.0%）、TY培地（6.3%）であった。分離部位については、脾臓（22.0%）、体表患部（19.7%）、腎臓（11.3%）、肝臓（8.0%）の順であり（第１表）、適切な分離診断のためには、血清加サイトファーガー培地を用い、脾臓及び体表患部を主体に分離することがよいと思われた。

保菌検査

低水温期に冷水病が発生し、その後飼育水温の上昇とともにへい死が終息した魚群について、保菌検査を実施したところ、50尾のうち２尾から*C.psychrophila*が分離され、不顕性感染をしていることを示した。

第１表　倍地及び分離部位のC.psychrophilaの分離率（%）

部位 / 培地	肝　臓	腎　臓	脾　臓	体表患部	平　均
ＢＨＩ	0.0（ 0/15）	0.0（ 0/15）	0.0（ 0/13）	0.0（ 0/12）	0.0（ 0/55）
ＴＹ	0.0（ 0/10）	11.1（ 1/ 9）	14.3（ 1/ 7）	0.0（ 0/ 6）	6.3（ 2/32）
ＴＹ＋血清	0.0（ 0/12）	9.1（ 1/11）	22.2（ 2/ 9）	37.5（ 3/ 8）	15.0（ 6/40）
ｻｲﾄﾌｧｰｶﾞｰ	4.0（ 4/25）	17.4（ 4/23）	23.1（ 3/13）	16.7（ 3/18）	17.7（14/79）
ｻｲﾄﾌｧｰｶﾞｰ＋血清	12.0（ 3/25）	13.6（ 3/22）	23.5（ 7/17）	35.3（ 6/17）	23.4（19/81）
平　均	8.0（ 7/87）	11.3（ 9/80）	22.0（13/59）	19.7（12/61）	

註）（）内は、分離個体数／検体数